



光栄の森

2019年5月 毎月1日発行 第129号
発行者 光栄プロテック 中川

5月に向けて

代表取締役 三田雅憲

いよいよ桜の花が終わり暑さも本格的になってきました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。当社では3月末に千葉白井工場へI君が、4月1日にはIさん、Nさんがともに本社へ入社され、慣れない中にも一生懸命頑張る姿に千葉も大阪もフレッシュ感が増しました。また5月には本社工場にさらに1名、新しい仲間が加わります。皆さん、よろしくお願いします。

大阪の新工場も少しずつですが形になってきており、5月24日に「火入れ式」を行い、6月初めに運用の予定です。これに伴い大阪本社では人事異動がありますが、皆様どうかご理解願いますとともに新しい環境で頑張ってくださいたく、よろしくお願いします。千葉白井工場には4月よりS係長が着任しこちらも大変忙しくなっています。改めまして頑張ってくださいたく思います。

新入社員を迎えて思うことは我々先に会社にいる先輩の姿勢です。部下を便利に使ったり憂さ晴らしにいびるようなことは以ての外ですが、「この会社に入ってこの先輩に出会えて良かった。」と言われる人になることが本当に大切なことだと思うのです。

今日は大手商社の伊藤忠商事の会長をされ民間初の駐中国大使を歴任された丹羽宇一郎さんの『仕事と心の流儀』から皆さんと学びたいと思います。

部下を持った人は、自分よりも部下や会社の事を優先しなければならないことが多くなってきます。なかでも部下の「心」の教育は、最も重要な務めのひとつです。インドのガンジーは、人間の成長には、肉体の鍛錬、知識の鍛錬、そして心の鍛錬が必要であると述べています。この三つの中で一番難しいのは心の鍛錬です。人間は、ちょっと油断すると邪心が芽生え、倫理を外れてしまいます。それは、昨今の企業の不祥事を見ても明らかです。だからこそリーダーが部下の「心」の教育をしっかりしていかなければなりません。それだけではなく、自分自身も深く広い教育を求めて学び続け「心」をさらに成長させていって欲しいと思います。そうした努力があって初めて自由があり、平等があり、権利や権限があるのです。自由に仕事を選ぶ権利、平等に機会を与えられる権利、職務上の権限といったものは努力をしなければ誰かに奪われてしまいます。努力をしなければ仕事の本当の喜びも味わないし、夢や目標を達成することもできません。お金だつて入ってこなくなる。逆に言えば、今自分の置かれた状況に不満がある人でも努力を続けていけば、いくらでもその状況は変わり得るということです。

リーダーとなる先輩がしっかりと努力をすることで部下を正しく導くことができる。またスキル(技術)以上に心を鍛えること、心の教育が大切であるとも言われています。新しい夢や未来を持った若者が社会人としての責任と、いい意味でのプライドの持てる会社にしていきましょう。